

モスク

イスラーム教の礼拝堂



隣人になりつつある イスラーム教徒（ムスリム）

- 増加するイスラーム教徒
 - 推定23万人（2020年）
 - 10年前から倍増
- 外国籍住民中心
 - 東南・南アジア（インドネシア、パキスタン、バングラデシュ、マレーシア等）
 - 中東（イラン、トルコ等）
 - 留学生、労働者
- 日本国籍者も
 - イスラーム教徒の内、推定約20%（2018年）
 - 配偶者・子、改宗者、帰化者

全国各地にみられるモスク

- 日本最古：神戸モスク（1935年）
- 1990年代から各地に増加
- 100以上のモスク（2023年）
- 大学周辺（留学生）、海沿い（労働者）に立地する傾向
- 法人化のものも（宗教法人、一般社団法人）



モスクでは日常と災害時にどのような活動が行われているのだろうか？

共生社会 & 「誰一人取り残さない」
防災・減災社会の実現に向けた第一歩！

文系 分野連携で 理系
宗教社会学 挑戦！ 防災学
文化人類学

日常の活動

宗教的活動の場



- 日々の礼拝の場
 - 礼拝前には手足や顔を水で清める（ウドゥー）
- 男女別スペースまたは男性専用
- 金曜（土曜）昼の集団礼拝
 - 集団礼拝後にはモスクで食事会があることも
- 断食月（ラマダーン）の食事会や集団礼拝、祭り
 - 遠方から泊り込みで参加する人も



イスラーム教徒がとるべき信仰行為：五行

1. 信仰告白
2. 礼拝
3. 喜捨（ザカート）
4. 断食（斎戒）
5. 巡礼

教育の場

- イスラーム教育の場
- 成人男女の勉強会
- 子ども向けの勉強会
 - 寺小屋・学童的存在
- 保育園、インターナショナルスクールを併設するモスクも

相互扶助の場

- 喜捨（寄付）による助け合い
- 生活困窮者の救済
- 日本に住むイスラーム教徒が直面する様々な困り事にも対処

婚礼・葬儀の場

婚姻@東京ジャーミー

葬儀

災害時の活動：地震災害

- 発災直後から支援者として活躍：救援物資の集配拠点を中心に役割は様々（避難所、ボランティアの休憩・宿泊場所等）
- 支援は国籍・宗教に関係なく広く実施

1995年阪神・淡路大震災

神戸モスク（兵庫県）



- 近隣のイスラーム教徒の避難所（発災後、数カ月）
- 救援物資の集配拠点
 - 全国のイスラーム教団体・個人から次々に到着
 - 救援物資の到着は周辺の避難所より早かったとの声も → 近隣住民にも配布
 - ハラル食を含む物資 → イスラーム教徒が食に困らず



2011年東日本大震災

仙台モスク（宮城県）



- 近隣のイスラーム教徒の避難所
- 救援物資の集配拠点
 - パキスタン大使館、マレーシアの支援団体、全国各地のモスクから到着
 - 宮城・福島沿岸地域を中心に配布
- ボランティアの休憩場所
- ボランティアの道案内

いわきモスク（福島県）



- 救援物資の集配拠点
- ボランティアの簡易宿泊場所

地域の避難所での炊き出し

大塚モスク（東京都）



東京から東北へ物資輸送

- 仙台モスク、いわきモスクへも

避難所での炊き出し

2016年熊本地震

熊本モスク（熊本県）



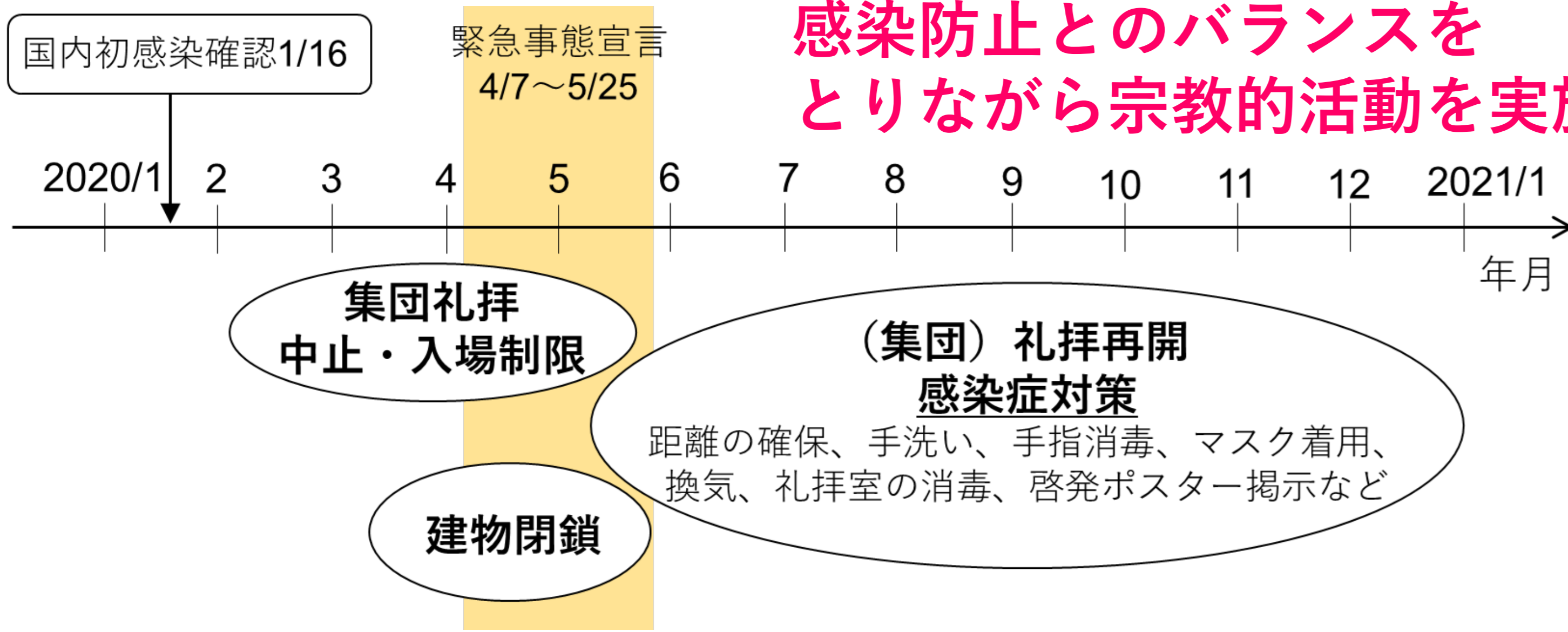
- 救援物資の集配拠点
- 近隣のイスラーム教徒の避難所

写真提供：熊本モスク

災害時の活動：コロナ禍（2020年）

モスクでの感染症対策

**適切な感染症対策
感染防止とのバランスを
とりながら宗教的活動を実施**



モスク名	新聞記事内容
神戸モスク (兵庫県)	礼拝堂 (約100平米) の窓を開けて換気し、体調不良の信者には自粛を呼びかけ。読売新聞4/13付
熊本モスク	金曜礼拝、イフタールなど大規模な集まりを除き、消毒や社会的距離を徹底して少人数で利用を許可。毎日新聞5/12付
鹿児島モスク	緊急事態宣言解除後は、マスク着用や手指の消毒徹底などの対策を取ったうえで、市内在住者に限って開放。朝日新聞5/22付
甲府モスク (山梨県)	礼拝場所に1メートル間隔で目印のテープを貼り、密集しないように対策。マスク着用を義務付け。ドアと窓は常に開放し換気。読売新聞6/18付
岐阜モスク	6月中旬に再開した金曜礼拝ではマスクをして、1メートル程度離れ、3密を避け実施。朝日新聞7/7付
伊勢崎モスク (群馬県)	金曜礼拝をマスク着用や手指消毒などの対策を講じている。子ども向けの勉強会の一部をビデオ通話に切替。朝日新聞11/16付

モスク名	インタビュー結果	
	緊急事態宣言下	宣言解除後
大塚モスク (東京都)	建物閉鎖 女性のための勉強会をオンラインへ(2, 3月～)	モスク利用を再開。金曜礼拝を複数回に分け実施。説教の短縮。モスクの外に手洗い場を設置し、入場前の手洗いを徹底。手指消毒アルコールを設置
境町モスク (群馬県)	建物閉鎖せず、小規模な活動のみ継続 平日、金曜・土曜礼拝は、定刻時間前後で分散実施	手指消毒液をモスク入口に設置。感染対策啓発ポスターを掲示。礼拝での他者との距離の確保。礼拝後毎回、カーペットの手と顔が触れる部分を消毒 土曜の集団礼拝後の食事は中止
Al-Faruqモスク (富山県)	建物閉鎖	5月頃からモスクでの礼拝活動を再開。老人や子どもにはモスクの利用自粛を呼び掛け。他者との距離の確保や、アルコール手指消毒、マスク着用促進、窓開け換気を実施



モスクによる支援活動

コロナ禍の影響を受けた人たちに、国籍・宗教を問わず様々な支援を提供

モスク名	新聞記事内容
神戸モスク	相談受付窓口：感染拡大の影響で仕事を失ったり帰国できなくなったりした信者らに
津島モスク (愛知県)	自治体からの情報を翻訳：日本語が不自由な信者らに生活上の困り事の相談
熊本モスク	モスク利用者への食料提供：ラマダーンの食事会(イフタール)が中止となったため、金銭面に悩むムスリム留学生を案じて無料で弁当を
静岡モスク	モスク利用者への食料提供：イフタール中止時に、閉鎖されたモスク前にフードボックスを設置し提供

モスク名	インタビュー結果
大塚モスク (東京都)	コロナ禍で問題を抱える日本人や外国人へ支援：コロナ流行以前からのホームレス支援の他、生活や仕事に問題を抱える日本人や外国人の相談にのった。金銭的問題を抱える人たちに寄付
境町モスク (群馬県)	利用者に情報提供：モスク利用者間のオンライングループが4月から作られ、県の感染状況などを翻訳し通知
Al-Faruqモスク (富山県)	自治体へのマスク寄付：モスク代表者のロシア勤務時代の人脈を頼り、ロシアからマスク2千枚を調達し、5月に市役所に寄付

災害時の活動：コロナ禍（2021年）

ワクチン接種

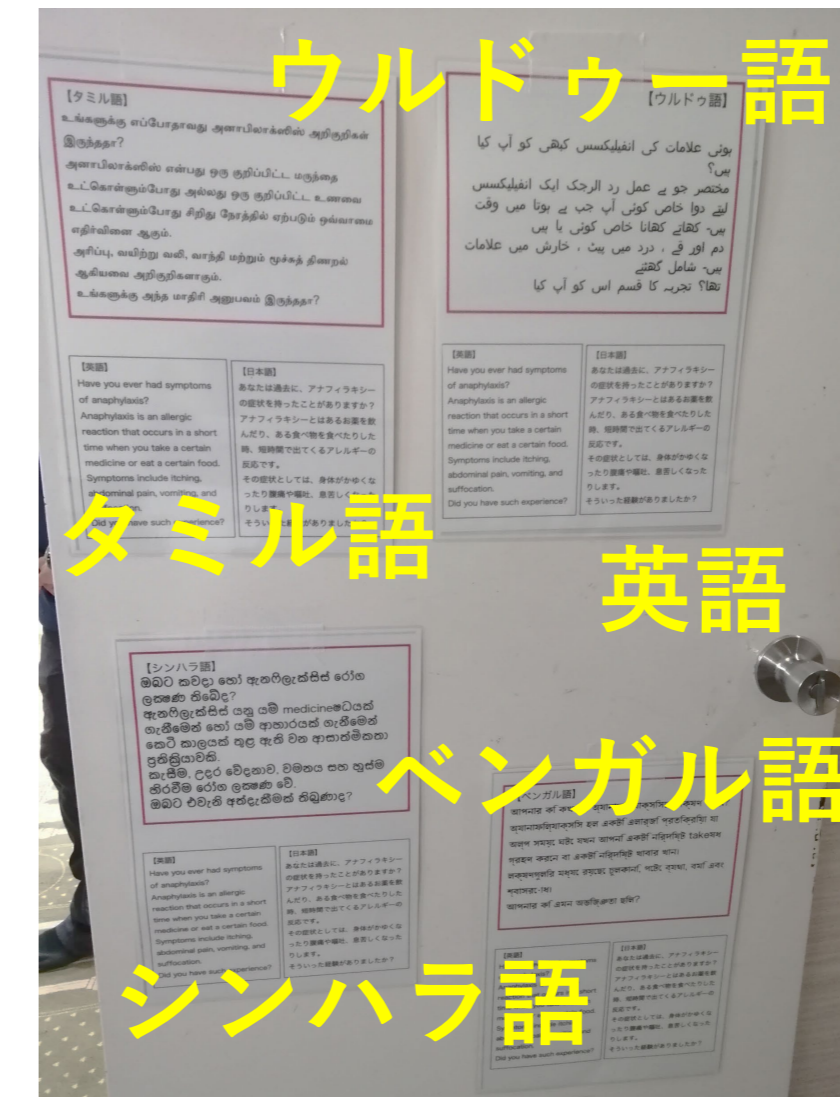
海老名モスク (神奈川県)

- 海老名市の**集団接種会場**として
- 2021年7月末～10月 (毎週土曜実施)



- 海老名市からの働きかけで実現
 - 言葉の壁による接種率低下懸念 & 地域全体の接種率向上
- 海老名市及び近隣自治体外国籍者対象

多言語対応
言語的配慮として



受付で多言語の注意事項掲示：
アナフィラキシー歴等
英語の問診票も用意



問診時の通訳：
モスクの代表者や利用者によるボランティア

宗教的配慮として
ジェンダー対応



男女別の接種部屋・
動線確保



女性被接種者へは
女性看護師による接種

大阪イスラミックセンター (大阪府)



写真引用：桂 (2021)

- 民間医療機関と連携した接種会場として
- 2021年8～9月

まとめ：モスクの日常と災害時の活動

日常

- 多様な社会的活動
 - 礼拝活動はもちろん、教育や助け合い、婚礼・葬儀等
- イスラーム教徒のコミュニティの中心として機能

災害時

- 発災直後から支援者として多様な活動
 - 地震災害：救援物資の集配拠点、避難所、ボランティアの休憩・宿泊場所など
 - コロナ禍：困り事相談窓口、情報の翻訳、寄付、ワクチン接種会場など
- 国籍・宗教に関係なく広く支援を実施
 - 少数派だからこそ手の届く支援も：宗教・言語的配慮

活動内容・役割を正しく理解することが共生社会 & 「誰一人取り残さない」防災・減災社会の実現の第一歩！